



「首里城下の遊覧説明板整備事業」は、2008年度公益信託那覇市NPO活動支援基金受託者として、三菱UFJ信託銀行の助成を受け実施しました。

- 「首里かわらばん」では設置説明板の内容の一部を掲載しました!
- かわらばん片手に首里城下の「遊覧はんめぐり」を楽しみませんか!
- 遊覧はんめぐりはギャラリー、首里の老舗、まちのお店、美味しいお店なども楽しめます!

【2】アカス森



首里城から東に伸びる「イーヌモ」付近にあった御嶽(ウタキ)。琉球王国時代には国王自ら参詣して祭祀が行われた。今でも人々の拝みの場となっている。

Akasumui

【3】天王寺ガ



首里三ヶ寺のひとつである天王寺の井戸。天王寺創建時、寺に井戸がなかったため、この井戸を使い始めたのが始まりとされている。旧暦九月九日「重陽の日」には、当蔵町自治会によって健康や繁栄が祈願される。

Tennoji-dera

【6】こむと森



汀良町ふれあい館(公民館)一帯の地名。別名「ウガンヌモ」とも呼ばれ、旧暦八月の十五夜、豊作と厄除を願ってシーシケエラセー(獅子舞)が行われる。

Kun di mui

【10】泰山石殿頭



中国から伝わる魔よけの「お守り」の石殿頭。石殿頭は一五世紀半ばに沖縄に伝わったとされ、魔除け、厄がえし、病気よけとして門前、丁字路の突き当たりなどに建てられた。

Taizan Ishigantou

【11】当蔵村学校所跡



琉球王国時代の首里当蔵村の学校兼役所跡。村学校所は士族の子どものための教育機関で、首里・那覇などの各村に建てられた。現在の小学校にあたる。

Tounokura mura gakkou ju ato

【5】アススイ森



汀次良村(現、首里汀良町)の拝所。神のお告げ通り、倒れた駿馬をこの地に埋めたところ、骨や鞍がいつべんに石に変わったことから人々はこの地を「アシューマイ」と呼び拝むようになったとされる。

Ashi i mui

【8】上之橋



弁ヶ嶽を源流とする「ジブガ」に架かる橋。首里城から浦添へ伸びる結ぶ街道は二本あり、首里城から円覚寺前の道を通って「上之橋」に伸びる道を「イーミチ」・龍淵橋から安谷川坂を通る道を「シムミチ」と呼ぶ。

Wii nu hashi

【12】後の道



当蔵村の裏通りの小路(スーミチ)。首里城下のメインストリートであった当蔵大道(現在の龍潭通り)に対する裏通り。当蔵郵便局へ抜ける手前には、名園「伊江殿内庭園」が見られる。

Kushi nu michi

【18】下之橋



弁ヶ嶽を源流とする「ジブガ」に架かる橋。川の上流にかかる上之橋に対して、下之橋と呼ばれる。橋の周囲には、野面積みでできた石垣が残っており、首里の古い佇まいが残る貴重な空間である。

Shimu nu hashi

【21】指司笠樋川



尚家敷地内にある樋川。第二尚氏王統三代国王・尚真王の長女・佐司笠按司加那志が、福木の木大木に印も鷹がとまるのを見て鷹が当たるとの由来がある樋川で、鶴泉とも呼ばれている。

Sashikasa Hijia

【24】大和ガ



町端村(マチバタ。現在、首里池端町)の唯一の共同井戸。琉球石灰岩の掘り抜き井戸で、大正の初め頃、宇久という大和人が中心になって掘削したがここで、大和ガの名で呼ばれるようになった。

Yamato Gaa

【19】御殿の小路



国頭御殿の横を通る小路。「御殿」とは王族クラスの家柄のことを言い、国頭御殿は、尚清王時代(在位一五二七〜一五五五年)の三司官だった国頭正胤にはじまる名家である。三世国頭正格の頃に功績によって王族に格上げされ、後に屋敷は大中へ移転している。また、戦後の一時期、この一帯には市が建ち、備保市場と呼ばれた。

Udun no suuji

【20】松山御殿跡



琉球王国最後の国王尚泰の四男である松山王子尚順の屋敷跡。尚順氏は、鹿藩置県以降、貴族院議員の傍ら、様々な事業を経営し、教養人、趣味人としても知られ、特に書については沖縄の名筆とされた人物。

Matsuyama Udun

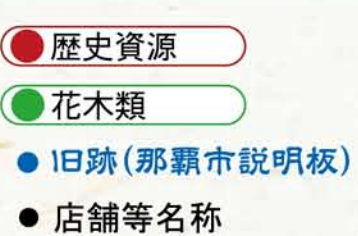
【22】天山陵



第一尚氏王統二代国王(しょうはし、一三七二〜一四三九)を葬ったとされる陵墓。一八世紀頃に製作された「首里古地図」にも「墓」の字が書かれ、南面する墓室の南には中央に門がしつらえられた石垣が確認できる。墓の前面には石牆をめぐらし、岩盤を彫り込んだ形の墓で、下の部分が宅地造成のために破壊された。一九八三年(昭和五八)の発掘調査によって出土した石棺の台座が現存しており、石棺には四方に見事な浮彫が施されている。石棺は硬い輝緑岩で、当時の石職人の技術の高さがうかがえる。内部は私有地のため見学できない。

Tenzan ryou

【23】新橋



三司官職を輩出した名門の屋敷跡。一七世紀以降、首里城の北側にあった場所。耳無し坊主とは北谷王子に両耳を切られたクルカニジャシのこと。「耳チリ坊主が鎌や小刀で泣く子の耳をゴソッと切っていくよ」と、泣く子をあやす少し怖い昔話のひとつである。

Mimichiri bouzu

【14】耳チリボーズ



沖繩の代表的な昔話から童歌「耳切り坊主」の舞台となった場所。耳無し坊主とは北谷王子に両耳を切られたクルカニジャシのこと。「耳チリ坊主が鎌や小刀で泣く子の耳をゴソッと切っていくよ」と、泣く子をあやす少し怖い昔話のひとつである。

Nakada dunchi ato

【15】仲田殿内跡



琉球王国時代の士族・仲田家の屋敷跡。「首里古地図」には「仲田親雲上」と記されている。昔からの格調ある玄関の石門、踊り場の石畳も健在である。

Nakada dunchi ato

【8】サボテンの仲間



濃緑で力強い柱。柱サボテン、太さ一〇〜二〇センチメートル、高さ一〜一六メートルになり、果実は食用となる。柱の容姿からは想像しがたい、月下美人の花のような美しい花はみごとなものである。

Matsuyama Udun

【1】タイワンレンギョウ



観賞用として明治中期に導入された。ほぼ年中にわたって花や実がみられ、特に実は生花の材料にも利用される。同じ種類に花の白いシロバナタイワンレンギョウや、葉に斑の入ったフリルタイワンレンギョウがある。

Taiwan Renyongu

【4】ゲットウ



大型の草木で、芳香を発する花。花は白色で唇弁は緑か黄色で中心が紅色。房状に垂れ下がる様が美しい。旧暦二月八日に沖縄各地で「ムーチー」と呼ばれる行事があり、ゲットウの葉で包み蒸した餅を供え、子供の健康を祈願する。

Gettou

【13】ツツアナナスの仲間



真っ赤な花を咲かせる。葉は剣状で長さ五〇センチほどになり、下の部分は太く筒状になる。葉の縁には細かい刺がある。花茎を真っすぐ伸ばして、総状花序に真っ赤な花を咲かせる。

A relative of Tsutsuananas

【7】オオバナリアケカズラ



樹冠全体に咲く鮮黄色の花。熱帯アメリカに分布し約一二種がある。沖縄ではブーゲンビレアやハイビスカスと同じ花木として広く利用されている。ほぼ、周年開花することから沖縄県内各地で植栽されている。

Oobana arikake kazura

【14】仙人大ガジュマル



傘状に広がる樹姿。高さ二〇メートルも。真木になる。幹や枝から気根を垂らし、支柱根を形成する。老木になると、その姿が神秘的に見えることから神木霊木としてあがめられる事もある。

Galumaru



● 歴史資源  
● 花木類  
● 旧跡(那覇市説明板)  
● 店舗等名称  
● その他名称  
● バス停